

◆第5学年 学習指導案◆ 「思いをこめて表現しよう」

教材：『星笛』
『大切なもの』

北区立袋小学校
第5学年2組 26名

1 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、自然で無理のない響きのある歌い方で歌ったり、各声部の歌声や、楽器の音色、全体の響きを聴いて、音を合わせて歌ったり演奏したりする技能を身に付ける。
- (2) 旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、自分たちの思いをこめて歌ったり演奏したりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組み、聴き手を意識した表現に親しむ。

2 題材について

(1) 研究主題との関連

①児童の実態から

第4学年での歌唱の学習では、『もみじ』を教材として、旋律の重なり方の違いについて初めて学習した。また、器楽の学習では、『陽気な船長』や『オーラリー』を教材として、旋律の特徴を生かして演奏したり、旋律の重なりを感じ取りながら演奏したりすることについて学習した。また、第5学年では、「音の重なりを感じ取って表現しよう」の題材で、器楽『山のこだま』と歌唱『ハロー・シャイニングブルー』を教材として「音の重なり」を生かした表現について考えたり、表現したりする学習を経験している。楽しんで合唱や合奏に取り組むことができる一方で、間違わずに演奏することばかりに気持ちが傾いてしまうことが多く、互いの音を聴き合いながら演奏したり歌ったりすることや、自分たちの思いをもって表現の工夫に生かしたりすることに課題があると感じている。

本題材では、これまでに学習してきたことを基に聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、それらを生かして児童一人一人が曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いをこめて表現することの楽しさや喜びを味わうことができるようにしたい。また、思いを表現につなげていく過程で、客観的に自分たちの表現を確かめたり、聴き合ったりする場面を大切に、児童が友達と協働して学習することの意義を実感できるようにしていきたい。

②題材の意義から

本題材では、歌唱と器楽の学習を関連付けた題材構成とする。

第一次では、器楽教材『星笛』の二部合奏をする。その際、児童が自分の技能習熟度に合わせて課題を選択し、リズムを簡略化した楽譜を使用したり、演奏箇所を分担したりすることにより、主体的に取り組めるようにする。また、同じパートの友達と音を合わせたり、異なるパート同士で音を重ねたり、互いの演奏を聴き合ったりするなど、友達と協働しながら学んでいけるよう、学習形態を工夫する。友達と考えを伝え合ったり、音を重ねて演奏したりする中で、曲想と旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係などの音楽の構造との関わりについて理解を深められるようにする。そして、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いをこめて表現することを体験することで、次の歌唱での学習に生かせるようにする。

第二次では、『大切なもの』の二部合唱をする。第一次の学習を生かして曲の特徴を捉えていく際、歌詞の表す情景を思い浮かべたり、心をこめて歌いたい言葉を探したりするなど、歌詞の内容にも目を向けるようにする。また、気付いたことや感じ取ったことを一人一台端末上の楽譜に、記入を積み重ね、児童が学びの深まりや広がりを感じられるようにしていく。さらに、自分の気付きや考えを互いに伝え合ったり、友達と声を合わせて歌ったり聴き合ったりする場面を設定し、様々な活動を通して友達と協働しながら歌い深めていく。第一次の学びを生かし、自分たちの思いを実現するための歌い方について児童同士で助言し合いながら、曲の特徴にふさわしい表現の工夫を歌声につなげ、思いをこめて表現することができるようにしていく。

第三次では、これまでに学習したことを生かして『星笛』や『大切なもの』の曲の特徴にふさわしい表現の工夫をし、思いや意図をもって歌ったり演奏したりすることの楽しさや喜びを味わえるようにする。そして、本題材の学習を通して、思いをこめて表現することのよさを実感し、今後の学校行事や日常生活に生かしていきたい。

(2) 学習指導要領との関連

【A表現：歌唱】(1) ア・イ・ウ (イ) (ウ)

【A表現：器楽】(2) ア・イ (ア)・ウ (ウ)

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア 旋律、音の重なり

イ 音楽の縦と横との関係

3 教材について

●『星笛』北村俊彦作曲 出典 小学音楽 音楽のおくりもの5 教育出版

イ短調、8分の6拍子、速度は♩=112程度。

A (1～8小節)、B (9小節～16小節)、A' (17小節～24小節) で構成された、三部形式となっている。8分の6拍子の流れを感じ取りながら、リコーダーの音色を大切に二部合奏に取り組みやすい教材である。また、B以降が二部合奏になり、Bは交互に掛け合い、A'はカノンになっている。旋律の掛け合いや音の重なりなどの音楽の特徴を生かし、思いを込めて表現する活動に適した教材であると考えられる。

●『大切なもの』山崎朋子作詞・作曲 出典 小学音楽 音楽のおくりもの5 教育出版

ハ長調、4分の4拍子、速度は♩=88程度。

A (1～8小節)、B (8小節～16小節)、C (16小節～28小節)、D (33小節～44小節) に分けて扱うこととする。旋律や音の重なりや移り変わりに明確な変化があり、『星笛』での学習を生かして児童が曲の特徴や曲想の変化を捉えやすい教材である。さらに聴き取ったことや感じ取ったことを基にして、児童が思いや意図をもって、曲にふさわしい表現を工夫する学習に結び付けやすいと考えた。冒頭部分のAの斉唱から、中盤以降のBの掛け合いやCの和声的な重なりへの変化による音楽の深まりを味わいながら、歌唱表現へとつなげていく。また、児童が共感しやすい歌詞の内容であることから、実際の生活と関わらせ、思いを誰かに伝えるという気持ちをもちながら、表現の工夫に取り組めるようにしたい。

4 研究主題に迫るための手立て

視点1 課題意識をもち、解決に向かっていく主体的な学びの実現

①指導の個別化、学習の個性化

- ・器楽や歌唱の学習において、一人一台端末で、児童が必要とする音源（各パートの旋律、伴奏、教師の模範演奏）を付けたカードを活用したり、活動の形態（個人、ペア、少人数のグループなど）を選択したりしながら学習に取り組むことができるようにする。
- ・器楽の学習では、全ての児童が無理なく活動に取り組めるようにするため、演奏する部分を自分で選べるようにしたり、技能習熟度の個人差を配慮した合奏形態にしたりする。また、技能面で課題をもつ児童が活動に取り組みやすいように、リズムを簡略化した楽譜から取り組めるようにする。
- ・歌唱の学習では、自分の声域に合った声の高さを選んで歌ったり、正しい音程を聴きながら歌えるように、正しく歌うことのできる友達やピアノの近くで歌ったりするなど、個別の課題に応じて活動の仕方を選べるようにする。また、表現の工夫をしたい部分を選び、同じ部分を選んだ児童同士でグループ編成することで、活動に取り組みやすくする。

②ねらいと振り返りの連動による学びの探求

- ・気付いたことや感じ取ったことを一人一台端末上の楽譜へ付箋で記入していく。題材を通して、日ごとに色を変えた付箋への記入を継続することで、学習の広がりや深まりを児童が自覚できるようにする。さらに、記入したことを次時の活動につなげていくことで、探究的な学びを実現する。
- ・一時間の学びを振り返る場面では、その時間のねらいに沿った項目について、一人一台端末に記録を積み重ねていくことで児童が自己の課題について考え、学習を調整しながら次の学習に取り組むことができるようにする。

視点2 考えや表現を広げ深めていく対話的な活動の充実

①考えを広げ深める場の設定

- ・曲の特徴を捉え、どのように歌いたいかなどについて、一人一台端末の共有機能を活用して友達と意見を共有し、共通点や違いに気付くことを通して考えを広げ深めるようにする。
- ・曲の特徴を生かした表現の工夫についての考えをグループで伝え合い、歌って確かめる時間をつくる。また、グループ相互で聴き合う場を設定し、互いに助言したり気付いたことを伝え合ったりして自分たちの思いや意図を実現していくようにする。

②協働する意味や目的の共有化

- ・歌唱の学習では、工夫したい部分が同じ児童同士でグループを組むようにし、思いや意図を共有しやすくする。それを全体に伝え、歌唱表現に実現していくことで、友達と協働して学習することのよさや、協働による学習の深まりを実感できるようにする。

視点3 学びを自覚し、積み重ねつなげていく題材構成の工夫

①身に付ける内容の焦点化と明確化

- ・題材「音の重なりを感じ取って表現しよう」や「今月のうた」、常時活動で学んだ旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などの既習事項を想起できるように、掲示物や発問の工夫をした。また、学級担任と連携して道徳の「友情・信頼」などとの関連を図ったりしながら、児童が歌詞への思いや気付きをふくらませ、自分なりの思いをもって表現へとつなげられるようにした。
- ・題材を通し、器楽と歌唱の両分野で、旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などを関連付けながら学習することにより、器楽で表現したことを歌唱の学習で生かすことができるようにする。

②音楽的な見方・考え方の働かせ方や深化・更新

- ・第一次の学びが第二次でどのように関連していくか、さらに第三次でどのように生かしていきたい

かを児童が考え、自分たちの思いや考えが題材を通して深まったり広がったりしていくことを自覚できるようにする。さらに、本題材での学びを、今後の題材や他教科の学習、卒業式などの学校行事などで生かすことができるようにする。

5 題材の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①[知] 『星笛』の曲想と旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などの音楽の構造との関わりを理解している。(器)</p> <p>②[技] 『星笛』の旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係が生み出すよさを表現するために必要な、各声部の音や全体の響きを聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付けている。(器)</p> <p>③[知] 『大切なもの』の曲想と旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。(歌)</p> <p>④[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。(歌)</p>	<p>[思]①『星笛』の旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器)</p> <p>[思]②『大切なもの』の旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌)</p>	<p>[態]①曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、自分たちの思いをこめて歌ったり演奏したりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(器)(歌)</p>



6 題材の指導計画と評価計画

8時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」			
		知 技	思	態	
<p><第一次のねらい> 『星笛』の曲想と旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係などの音楽の構造との関わりを理解し、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する。</p>					
1	<p>○『大切なもの』と『星笛』の曲想を感じ取ったり、曲の特徴に気付いたりして、題材全体の見通しをもつ。</p> <p>・題材の学習計画を知る。</p>	<p>◇題材の全体計画を伝え、学習への見通しをもてるようにする。</p>			↓

	<ul style="list-style-type: none"> ・『大切なもの』の縦書きの歌詞を音読し、歌詞が表す内容を想像しながら範唱を聴き、一人一台端末上の歌詞に「いいな」と思ったところなど、感じ取ったことを書き込む。 ・『星笛』の教科書の楽譜を見ながら範奏音源を聴き、気付いたことや感じ取ったことを発言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なめらかで、やさしい感じ。 ・旋律が追いかけてくしている。 ・同じ音で重なっているときがある。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・1のパートの階名唱を行い、指づかいを確認してからリコーダーで演奏する。 ・旋律の特徴を意識し、どのように演奏するとよいか考えながら個人で演奏する。 ・本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇曲想や曲の特徴などを付箋に書き込んでもよいこととし、今後も付箋への記入を継続していくことを伝える。 (視点1-②) ◇1のパートの範奏動画に重ねて、教師が2のパートを実際に演奏して聴かせることで、それぞれのパートがどのように演奏しているのかに気付きやすくする。 ◇音源を聴きながら、挙手するなどして音の重なり方の違いを全体で確認する。 ◇既習事項を想起し、音の重なり方や8分の6拍子を感じ取りながら演奏するように促す。 (視点3-①) ◇演奏箇所を分担する、リズムを簡略化した楽譜を使用するなど、個人の技能習熟度に合わせて取り組むよう促す。 (視点1-①) ◇感じ取った曲想について触れ、タンギング、息の流れ、息の吹き込み方などに気を付けて演奏するように助言する。 ◇曲想や曲の特徴について、気付いたことや感じたことを価値付け、次時への期待をもてるようにする。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○『星笛』の曲想と旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などの音楽の構造との関わりを理解する。 ・教師の演奏に合わせて旋律を口ずさみ、前時までの活動を思い出す。 ・1と2のパートの旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係について気付いたことを共有する。 ・旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係に気を付けて、2のパートを個 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時までに学習した曲の特徴などを提示し、学びを振り返ることができるようにする。 (視点1-②) ◇旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係について、児童とやり取りをしながら教師の端末上の楽譜にマーカーで色を付けるなどして、児童の考えを全体で共有できるようにする。 ◇児童が必要とする音源（各パートの旋律、伴奏、教師の模範演奏動 	①	知	発言・記述

	<p>人で演奏したり、友達と合わせて演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体を通して二部合奏をする。 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 	<p>画) を用意し、自分に合った方法を選択しながら、学習に取り組めるようにする。 (視点 1-①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分でどちらかのパートを選び、合わせて演奏するようにする。 ◇『星笛』の構造に着目させ、曲想と音楽の構造との関わりに気付くことができるように声掛けをする。 			
<p>3</p>	<p>○『星笛』の曲想と旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などの音楽の構造との関わりやそれらの働きが生み出すよさ、面白さ、美しさを感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『星笛』の特徴について確認する。 旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係を生かして、どのように演奏したいかについて、一人一台端末上の楽譜に考えをまとめ、交流する。 <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手のパートの音を聴いて、呼びかけ合うように演奏する。 互いの音をよく聴いて、バランスよく演奏する。 <p>○『星笛』の曲想と音楽の特徴との関わりについて感じ取りながら、各声部の響きを聴いて音を合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを演奏に結び付けるためにはどのようにしたらよいか全体で共有する。 自分の考えを基に、個人や友達と合わせて演奏する。 クラス全体で演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇曲の特徴について、前時までの学習をまとめたものを提示し、旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係を確認する。 (視点 1-②) ◇AとBの音の重なりの違いを生かして考えるようにする。 ◇旋律、音の重なりや、音楽の縦と横との関係を生かして演奏するために、どのような吹き方がよいか考えるように促す。 ◇一人一台端末上の音源に合わせて演奏したり、課題が達成している児童は友達と合わせて演奏したりしながら、音楽の特徴を生かした演奏ができるようにする。 (視点 1-①) ◇全体の演奏を録音し、自分たちの考えが表現に生かしているか確かめる場を設ける。 	<p>② 技演奏聴取・発言</p>	<p>① 発言・記述</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、第一次の学習が第二次でどのように関連していくかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇第一次の学びが第二次でどのように関連していくかを児童が考えるようにし、児童の思いや考えが次の学習につながっていくことを自覚できるようにする。 (視点3-②) ◇本時の学習や演奏の聴取から感じ取ったことを記述し、自分の思いをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述 		
<p><第二次のねらい> 『大切なもの』の曲想と旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解し、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、各声部の音や全体の響きを聴いて、思いや意図をもって歌う。</p>					
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○『大切なもの』の曲想と旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などの音楽の構造との関わりを理解する。 ・縦書きの歌詞を見て、曲想と歌詞の内容との関わりを考えながら、1番の主な旋律を歌う。 ・楽譜を見ながら範唱を聴き、旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係について気付いたことを一人一台端末上の楽譜に記入し、発表する。 ・楽譜を見て、気付いたことについて確認しながら、範唱を再度聴く。 ・副次的な旋律を歌う。 ・主な旋律と副次的な旋律を合わせて歌う。 ・旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係について意識しながら、二部合唱をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇旋律の特徴と歌詞との関わりに気を付けて、ピアノ伴奏に合わせて歌うようにする。 ◇児童の意見を基に、拡大楽譜にまとめる。 ◇旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係について気を付けながら聴くように促す。 ◇音楽の縦と横との関係などに気を付けて歌えるようにする。 ◇一人一台端末上の副次的旋律のみの音源を必要に応じて活用できるようにする。また、音程の取りにくい児童を正しい音程で歌うことのできる児童やピアノの近くに配置する。(視点1-①) ◇副次的な旋律に少人数で主旋律を重ねられるようにし、段階的に二部合唱にしていく。 ◇自分の声域に合った声部を選べるようにする。(視点1-①) 	<ul style="list-style-type: none"> ③知演奏聴取・発言・記述 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇曲想と旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係や歌詞の内容などとの関わりについて振り返り、次時への思いをつなげられるようにする。 			
<p style="text-align: center;">〈 Aと判断される児童の状況 〉</p> <p>知・曲想と旋律、音の重なりや音楽の縦と横との関係などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、自分の考えと友達の考えを比較・関連させながら発言や記述をする。</p> <p style="text-align: center;">〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <p>知・気付いたことや感じ取ったことを言葉で表現することが難しい児童には、旋律の特徴についての言葉の例や音楽の感じを表す言葉の例を示し、それらを結び付けて関わりを理解できるよう助言したり、理解しやすい言葉に言い換えて伝えたりする。</p>					
5	<ul style="list-style-type: none"> ○『大切なもの』の曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌いたいか思いや意図をもつ。 ・前時までの内容を思い出し、全体で歌う。 ・縦書きの歌詞や楽譜を見ながら、自分がどのように歌いたいか一人一台端末上の楽譜に記入する。 ・Bの部分とCの部分から、気に入った方を選び、グループ内で歌い方の工夫について考えを伝え合う。 ・伝え合ったそれぞれの考えを、グループの歌い方の工夫としてまとめる。 ・自分たちのグループの工夫を意識しながら1番を歌う。 ・本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時までの内容を確認できるように、児童の意見をまとめたものを掲示する。 ◇音の重なりや音楽の縦と横との関係について着目して考えるように促す。 ◇同じ部分を選んだ4人程度の児童同士でグループ編成することで、活動に取り組みやすくする。 <li style="text-align: center;">(視点2-②) ◇グループで工夫したいことを一人一台端末の共有ノートにまとめるように伝える。 <li style="text-align: center;">(視点2-①) ◇歌い方の工夫がまとまったら歌って試すようにする。 ◇自分たちの歌い方の工夫を確認してから歌うように声を掛ける。 ◇思いや意図をもち、活動に参加することができたか、振り返ることができるようにする。 			

<p>6 本時</p>	<p>○『大切なもの』の曲の特徴にふさわしい表現について試行錯誤しながら、思いや意図に合った表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時のグループに分かれ、自分たちの工夫について確認する。 ・前時の学習内容を振り返りながら、全体で1番を歌う。 ・Bの部分とCの部分のそれぞれのグループの工夫を発表し、全体で歌って確かめたり、さらによくするために意見を出し合ったりする。 <p>・全体を通して歌う。</p> <p>・本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>◇前時にまとめたグループごとの楽譜を見ながら、全体に発表する内容を確認するよう伝える。</p> <p>(視点1-②)</p> <p>◇自分たちの工夫に気を付けながら歌うように促す。</p> <p>◇各グループで考えた工夫を歌や言葉で表しながら全体で共有するようにする。</p> <p>(視点2-①)</p> <p>◇各グループの発表した内容を、拡大楽譜に順次追加し、クラス全体で一つの楽譜にまとめていく。</p> <p>◇歌い方を聞き比べて選んだり、考えた工夫の根拠を発問したりしながら児童の思いがふくらむようにする。</p> <p>◇児童が考えた工夫を歌声につなげられるよう、適宜助言したり、価値付けたりする。</p> <p>◇本時で学習したことを振り返り、自分なりの表現で、歌うように伝える。</p> <p>◇思いや意図に合った表現で1番を歌えたか、振り返ることができるようにし、次時は2番について学習することを伝える。</p> <p>★〈Aと判断される児童の状況〉〈Cと判断されそうな状況への手立て〉は本時案参照。</p>		<p>②</p> <p>発言・記述・演奏聴取</p>	
<p>7</p>	<p>○『大切なもの』の2番について、思いや意図をもって歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を全体で共有し振り返りながら、全曲を通して二部合唱をする。 	<p>◇前時までに学習した曲の特徴や歌い方などを提示し、学びを振り返ることができるようにする。</p> <p>(視点1-②)</p>			

・これまでの学習を基に、2番の歌い方について、どのように歌いたいか考える。

・2番の歌い方について、全体で共有する。

・自分たちの考えを基に、全体で2番の二部合唱をする。

○思いや意図に合った表現で、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴きながら二部合唱をする。

・これまでに学習してきた内容を思い出しながら二部合唱をする。

・本時の学習を振り返り、これまでの学習を更にどのように広げ、深めたいか考える。

◇これまでの学習をまとめた拡大楽譜を見返したり、歌詞の内容にふれたりしながら、2番の歌い方について思いをもてるようにする。
(視点1-②)

◇Dの部分について、Cとの違いについて、比べながら歌うようにする。

◇歌う役と聴く役とに分かれ、自分たちの思いや意図が実現できているか確かめられるようにする。
(視点2-①)

◇これまでの学習を思い出しながら、二つのパートの関わりや全体の響きを聴き合って歌うよう助言する。

◇第一次と第二次の学びが第三次でどのように関連していくかを児童に考えさせ、児童の思いや考えが次の学習につながっていくことを自覚させるようにする。
(視点3-②)

◇思いや意図をもって歌うことができたか振り返り、次時へのまとめにつなげるようにする。

④ 技 演奏 聴取 ・ 発言 ・ 記述

〈 Aと判断される児童の状況 〉

技・呼吸及び発音の仕方を自分なりに工夫して、自然で無理のない響きのある声で歌ったり、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴きながら、自分の歌声を全体の中で調和させたりして、音の重なりを生かした工夫について思いや意図に合った表現をしている。

〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉

技・思いや意図を生かして、友達と声を合わせて歌うことが難しい場合には、歌いやすい音域を調整して歌ってよいことや、安定して歌うことができる児童のそばで歌うように助言するなど、児童の取り組みやすい方法を提案したり、困っていることを全体で共有しながら他の児童と具体的な方法を考えたり、その方法を試したりして、全体で声を合わせて歌う活動を一緒に経験していけるようにする。



＜第三次のねらい＞題材全体で学んだことを生かして、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、自分たちの思いをこめて歌ったり演奏したりする。

- 8** ○曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、自分たちの思いをこめて歌ったり演奏したりする。
- ・『星笛』について、どのような思いをこめて演奏したいか考え、一人一台端末上の楽譜に書き込む。
 - ・自分の考えた思いを友達と交流する。
 - ・『星笛』を演奏する。
 - ・『大切なもの』で、自分が思いをこめて歌いたいところを考え、友達と交流する。
 - ・これまでの学習を生かして、思いをこめて『大切なもの』を全曲通して歌う。
 - ・これまでの学習を振り返る。

- ◇『大切なもの』で気付いたことや考えたことを基に、『星笛』をどのように演奏したいかについて、自分なりの思いをもてるようにする。 **(視点3-①)**
- ◇友達同士で交流したり、全体で発表したりして、考えを共有できるようにする。 **(視点2-①)**
- ◇考えた思いを大切にしながら演奏するように促す。
- ◇一人一台端末での前時までの振り返りや歌詞の内容を見返したりしながら、考えるようにする。 **(視点2-①)**
- ◇自分の思いを表現するために、どのように歌えばよいかを考えながら歌うように促す。
- ◇題材全体を通して学んだことを振り返り、今後の学習や卒業式などの行事に生かしていきたいことなどについて触れながら考えるようにする。 **(視点3-②)**

＜ Aと判断される児童の状況 ＞

態・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、自分たちの思いをこめて歌ったり演奏したりする学習に興味をもち、常にめあてを意識しながらグループや学級全体の演奏がよりよくなるように、進んで発言したり、他者と積極的に関わったりしながら歌唱や器楽の学習活動に取り組んでいる。

＜ Cと判断されそうな状況への手立て ＞

態・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、自分たちの思いをこめて歌ったり演奏したりする学習に興味をもてない児童には、できているところを積極的に認め、友達と一緒に活動しながら、自信をもって取り組める部分を少しずつ増やしていけるよう、その児童に寄り添いながら学習を進めていくようにする。

① 発言・記述・行動観察

7 本時の展開

6 時間目

(1) 本時のねらい

『大切なもの』の曲の特徴にふさわしい表現について、友達と歌声を聴き合ったり、伝え合ったりしながら、思いや意図に合った歌い方を工夫する。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準〈評価方法〉
<p>○『大切なもの』の曲の特徴にふさわしい表現について試行錯誤しながら、思いや意図に合った表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時のグループに分かれ、自分たちの工夫について確認する。 ・前時の学習内容を振り返りながら、全体で1番を歌う。 	<p>◇前時にまとめたグループごとの楽譜を見ながら、全体に発表する内容を確認するよう伝える。 (視点1-②)</p> <p>◇自分たちの工夫に気を付けながら歌うように促す。</p>
<p>『大切なもの』の特徴を生かしてみんなで歌い方を工夫しよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・Bの部分とCの部分のそれぞれのグループの工夫を発表し、全体で歌って確かめたり、さらによくするために意見を出し合ったりする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bの部分は、呼びかけ合って歌う。 ・「忘れることはない」のところは「大切なものに」に向かってだんだん強くしたい。 ・「たいせつなものに」をもりあげて歌いたい。 ・「あたたかいこのきもち」はていねいに歌いたい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で通して歌う。 ・本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 	<p>◇各グループで考えた工夫を歌や言葉で表しながら全体で共有するようにする。 (視点2-①)</p> <p>T「今日は前時のグループの工夫をクラス全体に伝えて、みんなで歌ってみましょう」</p> <p>◇各グループの発表した内容を、拡大楽譜に順次追加し、クラス全体で一つの楽譜にまとめていく。</p> <p>T「Bの部分について○班の皆さんはどのような工夫をしましたか」</p> <p>◇歌い方を聴き比べて選んだり、考えた工夫の根拠を発問したりしながら児童の思いがふくらむようにする。</p> <p>◇児童が考えた工夫を歌声につなげられるよう、適宜助言したり、価値付けたりする。</p> <p>T「では工夫したことを実際に歌ってみましょう」</p> <p>◇本時で学習したことを振り返り、自分なりの表現で、歌うように伝える。</p> <p>◇思いや意図に合った表現で1番を歌えたか、振り返ることができるようにし、次時は2番について学習することを伝える。</p>

- ◆『大切なもの』の旋律、音の重なりや、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

思・判・表②（発言・記述・演奏聴取）

〈 Aと判断される児童の状況 〉

- ・旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもち、考えを友達と伝え合い、友達の考えを聞いて共感したり、考えを広げたり深めたりしている。

〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉

- ・どのように歌うかについて思いや意図をもつことが難しい児童には、重なり方の違いを比較し、好きな部分を見付け、その理由から感じたことを言葉にしたり、友達の意見から共感できる部分を見つけたりして、表現の工夫につなげられるようにする。また、旋律や音の重なり、音楽の縦と横との関係について考えたことを表現につなげるのが難しい場合には理解しやすい言葉に言い換えて伝えたり、教師が近くで歌って声を出しやすいうようにしたりする。

助言者の言葉

歌唱の授業においても、児童の主体性・思考判断を生かしていくことが大切ですが、それを表現するための技能とどのように関連付けていくかが課題となります。児童に何を気付かせるか、どの音楽の要素と結びつけるか、教師はどのように支援をするかを明らかにしたいと考えます。さらにそのことが歌う感動につながる授業提案を願っています。参観者と共にこれからの歌唱授業の在り方を考える機会となりますように。